



(7) 郷土や国を愛する心を

この国を背負って立つのは私たち。私たちの住むふるさとには、伝統や文化が脈々と受けつがれている。それらを守り育てる使命が私たちにはある。

そのための力を今、私たちは養っているだろうか。

科学技術の発達、国際化、情報化、そして少子化や高齢化など、わが国の社会は急激な変化の中にある。

わが国の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土やわが国を愛する態度を養いながら、未来を切りひらく力を身に付けていこう。

● あなたのふるさをしようかいしましょう。



織物(おりもの)



● 各地で受けつがれる伝統工芸。地域の特色と日本らしさが、長い歴史をこえて、今に伝えられている。

歌舞伎(かぶき)



芸能

焼物



こけし

工芸



切子(きりこ)



人形浄瑠璃(じょうるり)

● 長い歴史の中で生まれ育まれてきた多くの伝統工芸がある。



能



端午(たんご)の節句

もちつき



季節の行事

語りつぎ受けつぐ日本らしさ

暮らしの風情



夏の風物詩

茶と和菓子(わがし)



● 日本人は、季節感や四季折々の行事を大切に暮らしてきた。



東京スカイツリー

● 法隆寺の五重塔のような、地震力を吸収させる「柔構造」の理論が生かされている。



世界最古の木造建築「法隆寺(ほうりゅうじ)」

● 木造の建物は自然との調和がはかられている。

建築

● 日本には日本の歴史の中で生まれ育まれてきた音楽がある。



祭りなどで演奏(えんそう)される「おはやし」

音楽



毛筆によって書けの美しさをきわめる「書道」



心身をきたえ人間形成を目指す「武道(ぶどう)」



おもてなしの心を追究する「茶道(さどう)」



花器の中に自然美を表す「華道(かどう)」

道

●わざをみがくと共に礼儀作法を重んじ、「道」を追究していく。



小型固体(こたい)ロケット「イブシロン」



藤子・F・不二雄「ドラえもん」



スーパーコンピュータ「京(けい)」

伝統の中にある「創造」の力

技術

●宇宙開発、次世代コンピュータ開発、アニメ制作など、日本の高度な技術は世界にほこれるものがたくさんある。

浮世絵

●浮世絵は、西洋絵画にも大きな影響をあたえた。左はオランダの画家ゴッホによる歌川広重の模写。



ゴッホ 日本趣味(しゅみ)「雨の大橋」



歌川広重 名所江戸百景「大はしあたけの夕立」

受けつがれている日本の伝統や文化に心動かされるとき、私たちはそれらをつくり、受けついできた昔の人々や地域の人々と心で対話をしている。
受けつがれているわが国の伝統や文化に学びながら、未来へ向けて豊かな心を育んでいきたい。そしてそれらを受けつぎ、さらに発展させていくための力を身に付けていきたい。

●興味をもった伝統や文化について調べてみましょう。

「いつてきまあす。はあ……。」
 と言って玄関げんかんを出たものの、やる気がわかない。かついでいる防具ぼうぐは本当に重たい。

ぼくが剣道を始めてもう三年になる。もともと、体をきたえるという目的で親にすすめられた剣道だが、友達のさそいで試合の前に見た「日本剣道形にほんけんどうがた」が剣道を始めるきっかけになった。本物の刀を使って行われる形は本当にかっこよかった。その立ち姿すがた、剣の動きなどはとても美しく、自分もやってみたいとあこがれをいだいた。でも、そんな思いもふき飛ぶほど日々の稽古けいこは大変だった。

日本剣道形
 大会などにおいて、開会式の最後に行われる、試合の前の儀式(ぎしき)の一つ。刃やいば(は)を切れない状態(じょうたい)にしてある刀を用いて行われる。

最初は竹刀しんたいすら持たせてもらえなかった。正座せいざの仕方、立ち方、礼の仕方など、いろいろなきまりをたたきこまれた。

やっと竹刀を持たせてもらえても、防具を着けるまでには一年もかかった。足の使い方、素振りすぶりなど、同じ動作のくり返しばかり……。

特に礼の仕方については厳きびしく指導しどうされた。道場に入る前の礼、出て行くときの礼、正面に向かっの礼、相手と稽古けいこを始めるときの礼など。こしを曲げる角度や目線も決まっていて、厳きびしく教えられた。(何でこんなに礼にこだわるんだろう。)

こんな疑問ぎもんをいだきながら稽古にはげんだ。

そんなつらかった剣道だが、いよいよ初めての試合の日が来た。これだけいやなことも頑張がんばってやってきたのだから、勝てるだろう。そう考えていた。

試合が始まり、相手の連続打ちに圧倒あつたされ、あつという間に一本取られた。(まずい。このままでは負けてしまう。)

気がかりがあせり、相手の迫力せきりきに負け、ぼくが後ろに下がった瞬間しゆんかん、ぼくは相手の竹刀を頭で受けていた。

「面あり。勝負あり。」
 相手の面が決まり、審判しんぱんに宣告せんこくされる。負けてしまった。ふてくされた態度たいどで引き上げを終えると、すぐに先生がぼくの方に近づいてきた。(なぐさめなんか、いらない。)

そう思っていたぼくに、先生は全く予想してない言葉をかけた。

「あのような見苦しい引き上げをする人間に、剣道をやる資格しきかくはない。他の試合をよく見てみなさい。」

意味はよく分からなかったが、しかられたことは確かだ。先生は一体何をおこっているのだろう。

しばらくは試合なんて見る気になれなかったが、午後の大人の試合を見ると、動きがぼくたちと全くちがって、素早すばやく、見ていてとても美しい。

引き上げ
 剣道の試合において、競技(きぎ)の最後(さいご)に終(しゆう)り(じゆうり)の(きゆう)後(ご)、おたがいに竹刀(たけやいば)を納(おさ)め、五歩下(ごふか)がって礼(れい)をする礼儀作法(れいぎさく)のこと。

(大人の試合はすごいな。)

心からそう思ったが、もう一つすごいと思ったことがあった。それは、試合に負けた方の引き上げだ。礼をする二人は息が合っていて、見ていても美しい。

絶対に、負けてくやしはずなのにどうして立派な態度で引き上げができるんだらう。

数日後、先生がこんな話をしてくれた。

「剣道は、『礼に始まり礼に終わる』と言われるように、礼というものをとても大切にします。自分がどのような状況でも、相手を敬い、尊重するという心の表れです。これは、日本人が昔から大切にしてきた相手を思いやる精神です。このように、一つ一つの動きには意味があり、我々が受けついでいかなければならないことです。」

「剣道の稽古をする目的は、人間性をみがいくことです。つまり、剣道は、人間をつくる道なのです。」



「人間をつくる道……か。」
ぼくはこの前の試合のときの引き上げを思い出した。日本人が大切にしてきたことを受けついでいるとしたら……。

「行ってきます。」
歯切れのよい、元気な声であいさつをして今日は稽古に向かう。いつもとても重かった防具が、心なしか軽く感じられる。

国家・社会の一員として

米百俵

明治維新の戦いで、幕府方に加わった長岡藩（今の新潟県長岡市を中心とする地域）は、官軍と戦って敗れました。藩のろく高は、減らされ、藩士たちは、売りはらうものもつきると、ついにその日の食べ物にも困るほどになりました。

明治三（一八七〇）年の春のことです。長岡藩と親類付き合いをしていた三根山藩（今の新潟県新潟市の一部の地域）から、長岡藩に、米百俵が送られてきました。藩士たちは、おどろき上がって喜び、その米が分配されるのを今か今かと待ちわびました。

ところが、藩の大参事、小林虎三郎が、この米をみんなに分配せずにお金にかえて、そのお金で学校を建てると言い始めたのです。これを聞いた藩士たちは、死ぬか生きるかのこのときに、学校なんか建てて何になるのかといきどおり、連れ立って、虎三郎の家へおしかけました。

なぜ、その米を分けられないのかと詰め寄る藩士たちを前にして、虎三郎は、言いました。

「わが藩の人数は、家族をふくめると、八千五百人に上る。これだけの人数に百俵の米を分けても、せいぜい二日分にしかならない。今、おたがいに考えなければならぬことは、この長岡藩を立ち直らせるには、どうすればよいかということだ。私たちがこんなに苦しいのは、戦いに敗れたからだと君たちは思っているかもしれないが、本当の原因はもっと深いところ

にある。それは、わが藩に人物がとぼしかったということだ。ものの分かる人物がもつたら、こんなひどい目にあわずに済んだのだ。この長岡藩が栄えるのもおとろえるのも、この日本をおこすのもほろぼすのも、ことごとく人にある。一日も早く、人物を養成することに力を注がねばならない。だから、わしは、何をおいても学校を建てて、人物を養成しようと思うのだ。」

「大参事のお考えはもつともですが、うえ死にしては元も子もない。藩士たちや家族がどんなに困っているのかお分かりでない。」

「分かっている。わしも困っている一人だ。しかし、学校を建て、人物を養成すれば、百俵の米は、やがて一万俵になるか、百万俵になるか計り知れないのだ。」

その真剣な表情から、ゆるぎない固い決意を感じた藩士たちは、虎三郎の言葉をついに受け入れました。

「大参事が、それほどまでに考えておるとも知らず、無礼を働きましたこと、申し訳ありません。」
「わしの考えが分かってもらえるならこんなうれいことはない。おたがい齒を食いしばって生きぬいて、この長岡をよみがえらせようではないか、立派な日本を打ち立てようではないか。」

まもなく長岡の町に、学校が建てられました。また、このことがきっかけとなって、長岡は教育のさかんな町となりました。そして、この町からは、すぐれた人材が数多く世の中に送り出されたのです。

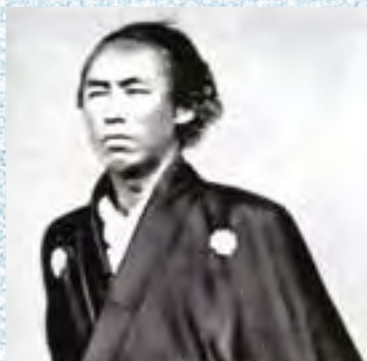
*官軍 朝廷側の軍勢。

*ろく高 武士が仕えている將軍や大名からあたえられる米などの量。

*大参事 役職の名前。

(8) 世界の人々とつながって

地球という一つの星に暮らす七十億以上の人々。
たくさんの方々の言葉、多様な生活様式、
そして様々な考え方。
私もこの星に生まれたその中の一人。
日本人としての自覚をもって
私にできることは何だろう。
私がやらなければならないことは何だろう。



龍馬は考えていた

世界に目を向けにやいかんぜよ

日本がまだ世界の中で孤立していた幕末、坂本龍馬は、「このままではいけない」という思いを強くもち、広く世界へ目を向けようとした。かれのえがいた新しい日本への思いとその構想は、志半ばでたおれた後に、実際の新しい国づくりに役立つことになる。そこには、日本も世界の二員として力強く発展してほしいという熱い思いがあった。

新渡戸は言った

私は太平洋のかけ橋になりたい

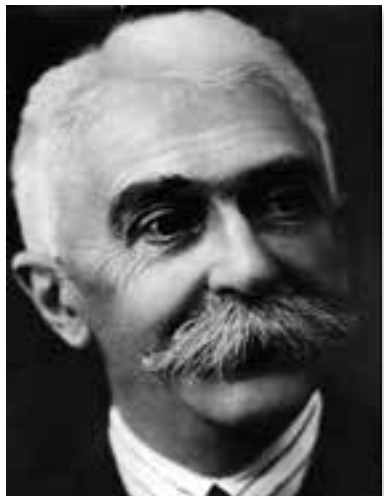
大正から昭和の初期、世界各国の関係が不安定な時代、新渡戸稲造は世界を回り、日本という国を理解してもらったためにうったえ続けた。

国際連盟(国際連合の前身)の仕事を通して世界の平和につくし、「太平洋のかけ橋」だけでなく「世界のかけ橋」となった。





オリンピックの開会式



ピエール・ド・クーベルタン
(一八六三〜一九三七)

世界を結んだオリンピック

フランスの教育者であったピエール・ド・クーベルタンは、スポーツを通して世界の国々が結び付きを深めていくことができるよう、古代ギリシャで行われていたオリンピックを復活させようとした。クーベルタンの熱心な働きかけによって、一八九六年、ギリシャのアテネで記念すべき第一回オリンピック競技大会が開催されることとなったのです。

大会のシンボルである五輪マークもクーベルタンが考えたもので、世界五大大陸の団結を表しています。クーベルタンが唱えたオリンピック精神とは、スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍など様々なちがいを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現にこつけんすることです。

この理想は、今も変わらず受けつがれ、クーベルタンは「近代オリンピックの父」と呼ばれています。

一盃に平和へのいのりを

千 玄室

みなさんは、二十世紀後半に、果たして日本の姿はどうなっているだろうか、と想像したことがありますか。

何年かかろうと、日本のみなさんに強く願うことは、温かい人間関係が息づく社会（世の中）を作る努力をおしまないということだと思います。

自分が少しでも人より優位に立ち、一番を目指すような社会ではなく、これからは一人一人の人間が「ONLY ONE」(かけがえない自分)として、みんなの中で生かされる世の中こそが実現されなければならないと思います。

戦争が人間社会にもたらす計り知れない不幸を地上から永遠に除去するためにも、一盃に平和へのいのりを深くこめて、平和へのちかいを新たにすることが私の使命です。

私も自分の職業を通じ、一盃のお茶によって世界中の方々に少しでも幸せになっていただけるよう努力しています。



千 玄室

大正十二(一九二三年)、京都府生まれ。裏千家前家元十五代。「一盃からピースフルネス」の理念を提唱し、世界六十数か国を歴訪。茶道文化の浸透・発展と世界平和の実現に向けた活動を展開している。ユネスコ親善大使。

●世界の人々と交流するためにどのようなことができると思いますか。



ペルーは泣いている

(サンバにルンバ、躍動するリズム、ほとばしる情熱と明るさ。私には、南アメリカ大陸の風が合っている。)

母校のバレーボールチームを学生日本一にした加藤明(アキラ)は、大きな夢をいだいて、ペルー女子バレーボールチームのかんどくになりました。

ペルーチームの選手は、十八人。各地から有望な選手が集まってきました。

「練習は土曜、日曜をのぞく毎日、夕方から五時間とする。」

アキラは、選手に言いわたしました。一日に一時間程度の練習しかしていなかった選手たちは、口々に不満を言いました。

夜の練習で家族との時間をもてなくなった選手の中には、家族を練習場に連れてくるものもいました。強いボールを受ける厳しい練習を見た父親が、

「うちのむすめは、もっとやさしくされる権利がある。この国ではそうだ。お前の国とはちがうんだ。」

と、怒鳴るように言って、選手を連れて帰ってしまうこともありました。

毎晩、ランニングやレシーブなどの厳しい練習がくり返され、何人かの選手はたえられなくなってやめていきました。新聞にも〈日本人かんどくが栄光の選手たちをやめさせた〉などと書かれました。

そんなアキラを支えたのは、選手たちの明るさでした。ペルーのむすめたちの吸いこまれるような笑顔に接すると、

(とにかくペルーの選手たちと一緒にあせを流そう。そして、いつかは世界のひのき舞台でペルーの人たちと一緒に喜び合おう。)

と、心にちかうのでした。

アキラは、ペルーの選手たちの素直さや快活さを、もっと練習の中に取り入れられないかと考えました。そのためには、いつも選手たちの父親のようであればいけないと思いました。

練習が終わると、選手たちと日本やペルーの料理を食べに行きました。選手たちは、アキラの教えた「上を向いて歩こう」や「さくら さくら」などの日本の歌や、ペルーの歌を、アキラと一緒に歌いました。そんなとき、選手たちは、アキラと家族のように結び付いていることを、感じるのです。

アキラは、明るくて純粋なペルーの人たちに、ますますひかれていきました。そして、選手たちからペルーの歴史や文化、習慣などを教えてもらい、自分がだんだんとペルーの人になっていくように感じました。

練習場では、キャプテンがペルーの言葉で、「オーレ」(頑張ろう)と声をかけると、他の選手たちが日本語で、「ハイ」と答えて、ボールを追いかけます。練習場からは、強いボールの音と、温かいかけ声がひびいてきました。もうやめていく選手は、一人もいませんでした。



加藤明
(一九三〇—一九八二)



世界女子バレーボール選手権大会で日本と戦うペルーチーム

昭和四十二（一九六七）年に、東京で世界女子バレーボール選手権大会が開かれました。ペルーは、南米代表として初めての「大舞台」。しかもアキラの祖国での試合でした。

しかし、結果は、おしくも四位に終わってしまいました。表彰式では一位から三位までのチームには金、銀、銅のメダルがおくられました。ペルーチームには何もありません。ただ、拍手がおくられるばかりでした。式が終わって、観客が立とうとしたとき、場内に思いがけない歌声が起きました。

アキラの教えた「上を向いて歩こう」を、ペルーの選手たちが、あざやかな日本語で歌っていました。くやしけれど、泣くまいとこらえ、アキラに向かって一生懸命に歌っているようでした。一位になった日本の選手たちがかけ寄ってきて、自分の首から金メダルを外すと、それをペルーの選手の首にかけてあげました。会場から、割れるような拍手が起きました。ペルーの選手は、笑いとなみだでくしゃくしゃになった顔で日本の選手とだき合いました。

アキラの目からも、なみだがあふれそうでした。選手

たちはこのとき、アキラを本当の父親のように感じたのでした。

選手たちは、この時のくやしさをばねに祖国ペルーに帰って猛練習にはげみました。そして、その年の四月にブラジルで開かれた南米選手権では、強敵ブラジルをも下し、南米一位の座を獲得したのです。

《ペルーは泣いている》

昭和五十七（一九八二）年三月、ペルーの新聞は、早すぎた加藤明の死を報じました。

そうぎは、バレーボール練習場で行われました。女子の選手たちのかたにかつがれたそのひつぎは、数千人のペルーの人々に見送られました。骨は、二つの箱に納められました。一つは故国日本に、もう一つは第二の故国ペルーにうめるために。

それから九年たった平成三（一九九一）年、ペルーのアテ市に、アキラの名前を付けた小・中学校 AKIRA KATO が建てられました。アキラのまいた国際親善の種は、今もしっかりとペルーの地に根づいているのです。

情報社会に生きる私たち

コンピュータや携帯電話などの情報機器は、便利なものですが、使い方によっては、危険やトラブルを招くこともあります。また、直接会って伝えないと気持ちが伝わらないこともあります。情報機器は、使い方をよく考えて使うことが大切です。

パソコン

キーワードを入れると、授業で出てきた人物や歴史のことを調べることができます。



携帯電話・スマートフォン

遠くにいる友達とも、電話やメールでやりとりできます。



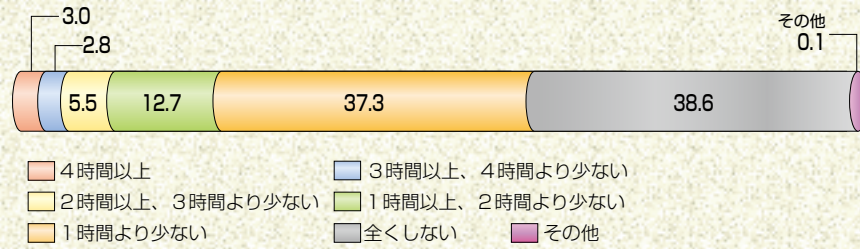
ゲーム機・タブレットなど

オンラインで、他の人と一緒に遊べたり、電子教材を使えたりします。

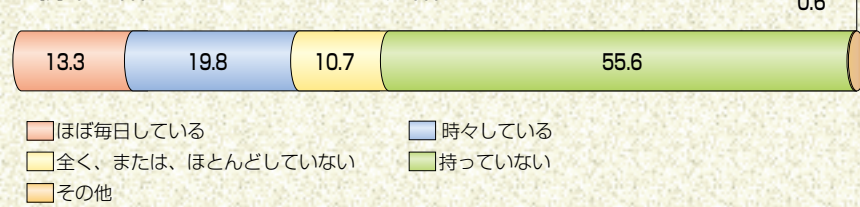


■ 小学6年生に聞きました。 [%]

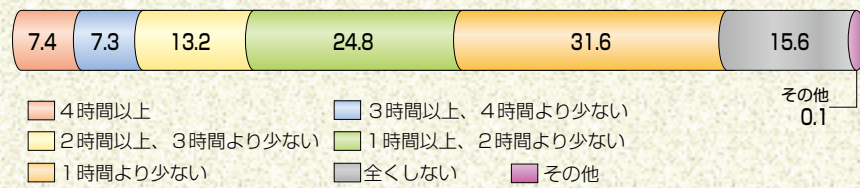
● 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話やスマートフォンを使う場合も含む)をしますか。



● 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしていますか。



● 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームも含む)をしますか。



文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査(小学校)」

● データを見て思ったことや、携帯電話などの情報機器の使い方について考えたことを書きましよう。

話し合ってみよう

インターネットをどのように使えばよいのだろう

●オンラインゲームなどのやり過ぎ

ここまでクリアしたい。もうちょっと……。

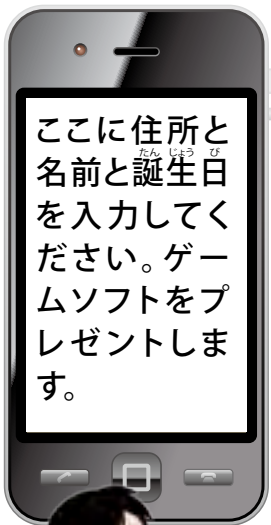


節度をもって

節度を考え、生活のリズムをくずさないようにしましょう。

●個人情報のあつかい

プレゼントがもらえるなら、入力してみようかな。

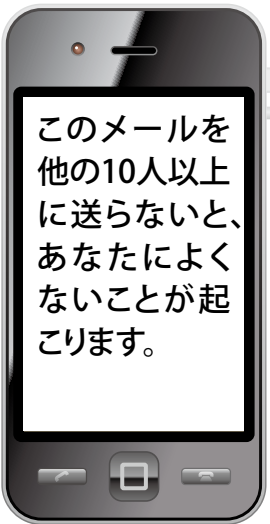


自分でよく考えて

個人情報が勝手に利用され、トラブルに巻き込まれることもあります。よく確かめずに、個人情報を入力しないようにしましょう。

●ネット上でのいやがらせ・チェーンメール

だれが書いたか分からないうから、悪口を書いてしまえ。



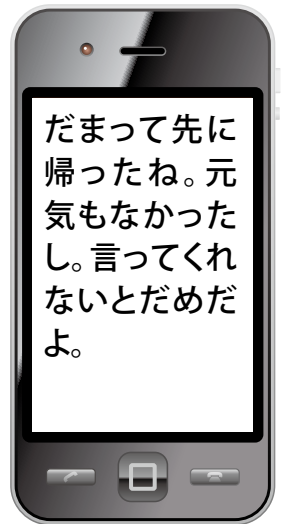
メールを送るべからだからいいか。他の人に送信だ。

相手の気持ちを考えて

相手の気持ちを考えましょう。相手を傷つけることはしてはいけません。

●言葉の使い方・情報機器の使い分け

送信



おっついるのかな。

どうしたのかな。心配だな。

真心が伝わるように

言葉がどのように受け止められるかを考えましょう。直接会って伝えないと気持ちが伝わらないこともあります。

インターネットを使うとき、他に気を付けたいことを話し合ってみましょう。

自分を見つめ

豊かに生きる

みなさん、これから自分だけで考えてください。人の言うことだけを丸覚えしては駄目ですよ。学校で教わることのおくに何か大事なことがあるのではないか、という疑問をもつことが必要です。

若い人にとって一番大事なことは「好奇心をもつ」ことです。次に、一つのこと「熱中する」。そして「やり続ける」。この三つがあれば、だれでもどんな仕事でも成功できます。

尾本恵市
(人類学者)

これからみなさんにも、本当に自分のしたいことが何なのか、自分は何に向いているのか、なやみ、考えるときがくると思いますが。早いうちにそれを見つかる人もいます。私のように大人になってから見つかる人もあります。その時期は、人によってちがいますが、一つ言えるのは、常に真面目に、努力を積み重ねていかなければ、決して「自分の道」は見つからないということです。

どんな世界でも活躍している人たちはみんな努力家だということ、みなさんも知っているでしょう。どんな分野に進んでも、努力をすれば、必ず報われるときがくるのです。

三枝成彰
(作曲家)

● 人や社会、自然などとの関わりの中で、あなたはどのような自分を目指しますか。

なりたい自分の姿(何をしたいか)

今の自分を見つめてみると(自分を知る)

なりたい自分に向かうには(みがき高める)

あなたにとって「豊かに生きる」とは(例＝夢に向かって努力するなど)